デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026 年 10 月 29 日（木） 発行：ていネコの投資ノート

1．本日のサマリー

■ **日経平均は 705 円 28 銭高の 6 万 4659 円 47 銭と 3 日続伸**し、終値で 6 万 4000 円台を回復した。TOPIX も 11.57 ポイント高の 4003.28 と反発して 4000 の大台に乗せたが、上昇率は日経平均の 1.10%に対し TOPIX は 0.29%にとどまり、NT 倍率は 16.15 倍へ上昇した。

■ 上昇の主因は、前日に通期業績予想の上方修正と最大 2800 億円の自社株買いを発表した**アドバンテスト**。同社 1 銘柄の日経平均寄与度は約 453 円と上げ幅の約 64%を占め、東京エレクトロンと合わせた 2 銘柄で約 569 円を押し上げた。FOMC の政策金利据え置きを無難に通過した米株高と SOX 指数の 4 日続伸も追い風となった。

■ 前場中盤には、決算を受けたサムスン電子の急落で韓国 KOSPI が崩れたのに連動し、日経平均は一時 800 円超高から**マイナス圏へ沈む荒い値動き**となった。業種別では銀行、証券、鉱業、非鉄金属など 25 業種が上昇した一方、機械と電気機器が下落し、決算が物足りないとされた日立製作所は 9.77%安。値下がり銘柄数（779）が値上がり（734）を上回った。

■ プライム市場の売買代金は概算 13 兆 8657 億円と前日の約 1.7 倍に膨らんだ。30 日に実施される TOPIX 定期入れ替えに伴うリバランス売買が大引けに集中したため。30 日は**日銀の金融政策決定会合の結果発表**（政策金利 1.25%の据え置き予想）と植田総裁会見、東京都区部 CPI、そして TOPIX 入れ替えの実施が重なる。

2．主要指標

指標名	水準	前日比	備考
日経平均（円）	64,659.47	+705.28	3 日続伸、+1.10%
TOPIX	4,003.28	+11.57	反発、+0.29%。4000 台を回復
NT 倍率（倍）	16.15	+0.13	日経平均÷TOPIX（筆者算出）
プライム売買代金	13 兆 8,657 億円	+5 兆 7,915 億	概算。TOPIX 入れ替え前のリバランス売買
プライム騰落銘柄数	734／779	—	値上がり／値下がり（変わらず 38）
新発 10 年国債利回り	2.829%	+0.011	日銀会合を前に小幅上昇
新発 2 年国債利回り	1.886%	+0.003	政策金利 1.25%の据え置き予想
新発 20 年国債利回り	3.649%	+0.009	超長期もじり高
長期国債先物 12 月限（円）	126.24	-0.05	27 日以降 3 日連続の下落。寄付 126.42
ドル円（円）	157.83	-0.01	15 時 40 分、NY 終値比。東京 157.61～158.07
ユーロ円（円）	175.77	-0.28	15 時 40 分、NY 終値比。ECB 理事会待ち
NY ダウ（ドル）	52,475.10	+97.53	28 日、3 日続伸、+0.19%
S&P500	7,743.98	+21.38	28 日、+0.28%
ナスダック総合	26,549.85	+72.04	28 日、+0.27%
SOX 指数	11,684.00	+201.49	28 日、4 日続伸、+1.75%
米 10 年国債利回り	5.017%	+0.015	28 日。FOMC 後に上昇
WTI 原油 12 月限（ドル）	102.78	+2.88	28 日、3 営業日ぶり反発、+2.88%
NY 金 12 月限（ドル）	4,051.6	-23.0	28 日、先物清算値。金利上昇が重荷
韓国 KOSPI	5,937.66	-74.78	29 日、3 日ぶり反落、-1.24%
上海総合指数	3,651.43	-30.04	29 日、-0.82%

3．株式市場

寄り付き～前場：アドバンテスト主導で一時 800 円超高、その後マイナス圏へ

日経平均は 172 円 06 銭高の 6 万 4126 円 25 銭で寄り付いた。FOMC が政策金利を 3.75～4.00%で据え置き、米主要 3 指数がそろって 3 日続伸、SOX 指数も 1.75%高と半導体株が強かった流れを引き継いだ。前日発表の決算で通期営業利益予想を 8460 億円から 9670 億円へ引き上げたアドバンテストが急騰し、上げ幅は一時 800 円を超えた。ところが 10 時台、7～9 月期決算が市場予想に届かなかったサムスン電子が 5%前後下落して KOSPI が急落すると、半導体株に利益確定売りが波及し、日経平均は一気にマイナス圏に沈んだ。その後は押し目買いで持ち直し、前引けは 177 円 09 銭高の 6 万 4131 円 28 銭だった。

後場：切り返して 3 日続伸、引けはリバランスの大商い

後場は売り先行で始まったが、海外勢とみられる指数先物への買いが入り、午後に入って上げ幅を再び 800 円超へ広げた。大引けは 705 円 28 銭高の 6 万 4659 円 47 銭で、高値 6 万 4831 円 29 銭、安値 6 万 3749 円 20 銭と日中の値幅は 1082 円に達した。プライム市場の売買高は概算 41 億 4801 万株、売買代金は同 13 兆 8657 億円。30 日実施の TOPIX 定期入れ替え（新基準で初回）では市場全体で約 9.6 兆円の売買が見込まれ、パッシブ資金が 29 日の大引けに持ち高を調整したことで、売買代金が膨張した。

物色動向：AI 半導体と金融に資金、機械・電機の決算銘柄は選別

上昇はアドバンテスト、東京エレクトロン、ソフトバンクグループ、イビデン、フジクラ、村田製作所、キオクシア HD など AI 関連が中心。業種別の上昇率首位は銀行業（+2.54%）で、証券（+2.10%）、鉱業（+1.98%）、非鉄金属（+1.65%）、電力・ガス（+1.55%）、保険（+1.53%）が続いた。一方、下落率首位は機械（-1.70%）、次いで電気機器（-1.16%）、繊維（-0.74%）。通期の純利益予想を引き上げたものの市場予想に届かなかった日立製作所が大幅安となったほか、ファナック、コマツ、ダイキン、キーエンス、TDK が軟調だった。

4．本日の主題：上げ幅の 6 割強を 1 銘柄が担った日経平均

本日の日経平均の上昇 705 円 28 銭のうち、アドバンテスト 1 銘柄の寄与が約 453 円、東京エレクトロンが約 116 円で、2 銘柄だけで上げ幅の約 8 割を占めた。採用 225 銘柄の寄与は値上がり 132 銘柄で+921.95 円、値下がり 92 銘柄で-216.67 円である。アドバンテストを除けば日経平均の上昇は約 252 円（約+0.39%）、2 銘柄を除けば約 136 円（約+0.21%）にとどまり、TOPIX の+0.29%とほぼ同水準になる。日経平均の「大幅続伸」は市場全体の強さではなく、値がさの半導体株の決算反応が生んだものだ。

この偏りは今週を通じて続く。27 日はアドバンテスト 1 銘柄で約 602 円を押し上げて日経平均が 1078 円高、28 日は日経平均が 685 円高でも TOPIX は反落し、プライムの値下がり銘柄は 1096 に達した。3 営業日で日経平均は 2469 円 82 銭（+3.97%）上昇したが、TOPIX は 30.30 ポイント（+0.76%）にとどまる。電気機器は-1.16%と下落し、日立や TDK などは決算を理由に売られた。「半導体なら何でも買う」局面から、決算で選別する局面に移った。

一方で本日は TOPIX が上昇に転じ、値上がり銘柄も前日の 432 から 734 へ増えた。けん引役は銀行・証券・保険の金融株で、日銀会合を前にした国内金利の上昇基調が追い風だ。ただ 30 日には日銀の決定と TOPIX 入れ替えが重なり、本日の大商いを生んだリバランス需要は一巡する。需給要因が剥落した後に上昇が市場全体へ広がるかが、上昇の持続性を測る試金石となる。

5．債券・金利

新発 10 年国債利回りは 2.829%と前日比 0.011 ポイント上昇した。2 年債は 1.886%（+0.003）、5 年債は 2.254%（-0.003）、20 年債は 3.649%（+0.009）。長期国債先物 12 月限は 126 円 42 銭で寄り付き、高値 126 円 48 銭、安値 126 円 16 銭を経て 126 円 24 銭（5 銭安）で引け、27 日以降 3 日連続の下落となった。日銀は 30 日に政策金利 1.25%の据え置きが予想されるが、展望レポートと植田総裁の会見で 12 月利上げが示唆されるかが焦点で、会合前の持ち高調整売りと日本株高が先物の重荷となった。米 10 年債利回りは 28 日に 5.017%（+0.015）へ上昇。FOMC は 10 対 2 で据え置きを決めたが、反対した 2 人は利上げを主張し、ウォーシュ議長も年内利上げの余地を残した。

6．為替・商品

ドル円は東京時間に 157 円 61 銭～158 円 07 銭の狭いレンジで推移し、15 時 40 分時点で 157 円 83 銭と NY 終値からほぼ横ばい。日銀会合と ECB 理事会を控えて様子見が強く、米 10 年債利回りが 5.03%前後から 4.97%前後へ低下したことが上値を抑えた。ユーロは ECB 理事会を前に小幅に軟化した。WTI 原油 12 月限は 28 日に 102.78 ドル（+2.88 ドル）と 3 営業日ぶりに反発。米中間選挙後に米国やイスラエルがイランを攻撃する可能性が報じられた。NY 金 12 月限は金利上昇を嫌気して 4051.6 ドル（-23.0 ドル）と小反落。

7．海外市場の動向

28 日の米国市場は主要 3 指数がそろって 3 日続伸した。ダウは 97.53 ドル高の 5 万 2475.10 ドル、S&P500 は 21.38 ポイント高の 7743.98、ナスダック総合は 72.04 ポイント高の 2 万 6549.85。SOX 指数は 201.49 ポイント高（+1.75%）の 11684.00 と 4 日続伸し、マイクロン、ラムリサーチ、アプライド・マテリアルズが 5%超上昇した。引け後はマイクロソフトが時間外で 5%前後上昇した一方、アルファベットは時間外で急落し、AI 投資の採算性をめぐって評価が分かれた。CME 日経平均先物は 6 万 4990 円。29 日のアジアは軟調で、韓国 KOSPI は 74.78 ポイント安の 5937.66 と 3 日ぶりに反落した。サムスン電子は 7～9 月期の営業利益が前年同期比で約 8.8 倍に急増したものの市場予想に届かず、5%前後下落した。上海総合指数は 30.04 ポイント安の 3651.43 と下落した。

8．直近の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	10 年債利回り	プライム売買代金
10 月 23 日（金）	62,693.16	-214.68	3,965.81	2.789%	8 兆 9,383 億円
10 月 26 日（月）	62,189.65	-503.51	3,972.98	2.770%	6 兆 6,438 億円
10 月 27 日（火）	63,268.37	+1,078.72	3,997.37	2.782%	6 兆 9,360 億円
10 月 28 日（水）	63,954.19	+685.82	3,991.71	2.818%	8 兆 742 億円
10 月 29 日（木）	64,659.47	+705.28	4,003.28	2.829%	13 兆 8,657 億円

9．総括と注目点

日経平均は 3 日続伸で 6 万 4000 円台を回復したが、上昇の大半はアドバンテストと東京エレクトロンによるもので、TOPIX の上昇は小幅だった。決算による選別色が強まるなか、30 日は日銀会合と TOPIX 入れ替えを同時に迎える。

- **30 日（金）日銀会合・植田総裁会見**：据え置き予想。12 月利上げの示唆の有無が金利・円・銀行株を左右
- **29 日夜の米国**：7～9 月期 GDP 速報値、9 月 PCE、ECB 理事会。アマゾン、インテルなどの決算
- **30 日の TOPIX 入れ替えとキオクシア HD 決算**：需給一巡後に指数間の乖離が修正されるか
- **中東情勢と原油、11 月 3 日の米中間選挙**：原油高が米長期金利 5%台の定着を促すか（東証は 3 日休場）

【脚注】数値は 2026 年 10 月 29 日 17 時 30 分時点の公開情報による。東証プライムの売買代金・売買高は概算値。前日比・騰落率・NT 倍率・寄与度の比率などは筆者算出で、「前営業日終値＋前日比＝当日終値」で検算した。寄与度は株探掲載のフィスコ「日経平均寄与度ランキング（大引け）」（16 時 49 分）による単一系統の数値で、値上がり・値下がり銘柄の寄与合計の差が前日比と一致することを筆者が確認した。騰落銘柄数は株探の大引け記事 2 本（16 時 22 分、16 時 47 分）で一致。値下がり優勢だが TOPIX 上昇・25 業種上昇と併せ大型株主導の上昇と判断した。
国債利回りはフィスコ日次「日本国債市場」の系列で揃えた（DZH は 10 年債 2.835%）。30 年債と 10 年債の日中高安は同系列で得られず不掲載。WTI は株探と DZH の 102.78 ドルを採用し、フィスコの 101.71 ドルは時点の異なる値として不採用。NY 金は COMEX12 月限の清算値。SOX は Nasdaq 公式の 11,684.00（+201.49）を採用（フィスコ+201.50。初版の 11,674 は誤り）。KOSPI と上海総合は株探値を採用し、Trading Economics の相場表示（5859.39、3645.44）は不採用。香港ハンセン指数と米 2 年・30 年債利回りは確定値を確認できず不掲載。
本レポートは生成 AI を用いて公開情報を整理・執筆した。出典：株探（フィスコ配信を含む）、財経新聞、OANDA 証券（DZH・共同通信）、Investing.com、Yahoo!ファイナンス、松井証券、世界一やさしい投資の学校、ニューズウィーク日本版、マネーポスト WEB、BigGo、財経日報、edaily、TradingKey、Trading Economics、stock-marketdata.com、外為どっとコム。
本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。